

幼稚園における環境構成のユニバーサルデザイン化の事例開発

—生活場面における物的環境に焦点化して—

柴垣登・鈴木恵太・滝吉美知香・青山慶*, 高橋文子・小野章江・千葉紅子・渡邊奈穂子・餘目陽子・
佐々木由美・藤澤友美子・伊藤さやか・岩下マリ子・川村真紀・吉田美奈子**, 佐々木全・東信之***,
佐々木尚子・大森響生・原田孝祐・熊谷美智子・沼崎悠華****

*岩手大学教育学部, **岩手大学教育学部附属幼稚園, ***岩手大学大学院教育学研究科, ****岩手大
学大学院教育学研究科教職実践専攻

(令和3年3月4日受理)

1. はじめに

(1) 特別な支援の必要な幼児の増加

幼稚園に教育上特別な支援を必要とする幼児が在籍している状況については、ベネッセ教育総合研究所が2018年に実施した「第3回 幼児教育・保育についての基本調査ⁱ」の結果がある。同調査の結果では、障害のある幼児・特別に支援を要する幼児がいる園は、園種を問わず、公立・公営の園では9割前後、私立・私営の園では7割～8割あり、幼稚園・保育所とも経年で増加していることが示されている。このように、国公立、私立を問わず、障害のある幼児・特別な支援を要する幼児が年々増加し、現在ではほとんどの園にそのような幼児がいる。そのような状況の中で、いずれの園においても適切な指導を行うことが求められている。

(2) 幼稚園におけるユニバーサルデザイン化

現行幼稚園教育要領の総則に示されているように、幼稚園教育の基本は、「幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであること」（文部科学省 [2017] 3）が基本である。そのため教師は、「幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるもの」（文部科学省 [2017] 3）とされている。その上で教師は、「幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人

の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、教師は、幼児と人やものとの関わりが重要であることを踏まえ、教材を工夫し、物的・空間的環境を構成しなければならない」（文部科学省 [2017] 3）とされている。

このように幼稚園においては、幼児が主体的に活動できるように環境構成を行うことが重要であり、特別な支援を必要とする幼児に限らず、様々な環境構成の工夫が行われている。そのため、幼稚園における環境構成のユニバーサルデザインⁱⁱ化は、新たに何かを行うというよりも、もともと行われている環境構成を基盤にして、特別な支援を必要とする幼児にとってよりわかりやすくするために必要な工夫を行うという視点を加えたものと考えられる。

(3) 岩手大学教育学部附属幼稚園の状況

特別な支援の必要な幼児が在籍する状況は岩手大学教育学部附属幼稚園（以下「本園」とする）においても同様である。そのため、本園では定期的にケース会議を開催し、支援の必要な園児についての情報の共有や支援内容・方法の検討を行っている。また、大学の附属学校特別支援教育連携専門委員会委員（大学教員）による定期的観察と支援内容・方法等の助言を受けるとともに、同委員会委員と本園教員による合同のケース会議を行い支援内容・方法の改善や充実に生かしている。

環境構成については、全ての園児が主体的に園での生活や遊びに取り組めるように様々な工夫を

行っている。特に本園で初めて幼稚園生活を経験する3歳児,4歳児にとって,4月当初は見ることに、聞くことが初めてのことが多く、登園後の荷物の整理や、遊んだ後のおもちゃの片付けなど戸惑うことも多い。そのために見てわかるための工夫が随所に行われている。以下その例を示す。

①荷物の片付け場所 (3歳児)



上靴入れ (男女別)



コップの片付け場所 (園児別)

自分の荷物を片づける場所を分かりやすくしている例である。上の写真では、男女別になっている上靴の袋入れのカゴを、色と男女別の絵で示している。下の写真では、個人別になっている置き場を動物や乗り物の絵などで示している。絵は各園児で決まっており、カバンを掛ける場所なども同じように表示がされ、絵を見れば自分のものを置く場所がわかるようにされている。

②おもちゃの片付け方の例示 (3歳児)

ままごと遊びに使うお皿や茶わん、スプーン、フォークなどの片付け方の例示である。上の写真では、棚の左上に片づけられた状態の写真が例示されている。また下の写真では、少しわかりにくいそれぞれの棚に、そこに片づけるものの写真が貼られており、どの棚に何を片づければよいかが見てわかるようになっている。



②登園後の荷物の片付け (4歳児)

登園後最初に行う活動として、自分が持ってきた荷物を片づけることがある。カバンからコップや連絡帳、お手紙入れなどを出し、それらを所定の位置に片づけるのであるが、これがなかなかスムーズに行えない園児がいる。そのために、何をどこに片づければよいのか、またこの時間帯に何をすればよいのかが一目で見てわかるようになっている。



2. 方法

本研究では、生活場面における物的環境のユニバーサルデザイン化に焦点化して以下の取組を進めた。先に述べたように、本園では園児が主体的に活動できるよう様々な工夫が行われている。それらの工夫があつてなお、園児たちが生活の中で

スムーズに活動できていない場面（困っている場面）はどのような場面なのかを明らかにした。その上で、それらの場面で園児が何をやるかがわかり見通しを持って活動できるようにするための改善を図ることとした。

まず、園児たちが生活の中でスムーズに活動できていない場面（困っている場面）はどのような場面なのかを明らかにするために、教員にアンケート調査ⁱⁱⁱを実施した。結果として、以下のような場面とその原因として考えられることが明らかになった（表）。

例えば、着替えが難しい場面では、着替えの手順がわからないためであったり、片付けへの切り替えができていない場面では、片付け後の生活の楽しさがイメージできていなかったり、片づける場所がわかっているようでわかっていないなどである。

表 園児たちが困っている状況とその原因

活動	場所	子どもの様子	原因
・着替え袋をかける ・衣服の調節	・廊下 ・移動式カバン掛け	・着替え袋を着替え袋に入れ、その袋を掛ける物として、かばん掛けを利用している。(衣服の調節の為に脱いだスモックも同様) ・掛けるフックに上手くかけられないでいる。	・保育室の広さを保障する為、かばん掛けは全員登園後廊下に置いている。しかし、スモックの脱ぎ着、袋をかける際、教師の目が届きやすいよう室内に置くことが増えた（暑くなってきた6月頃から）。
		・靴や帽子を自分のところの上や下・右・左に置いたり、そこから取ってしまう。	・自分のマークをよく見ないで、なんとなく置いたり、取ったりしている。
・手洗い・うがい	・水飲み場	・手洗い・うがいをいつまでもやって水遊びになってしまう。	・手洗いの手順は貼っているが、 <u>うがいの回数や時間については明確ではない。</u>
・着替え	・廊下	・自分で着替えを進めることが難しい。(今は自分なりのペースで進めている)	・着替えの手順が分からない。
・片付け	・遊んでいる場所	・遊びから片付けへの切りかえができない。	・片付け後の生活の楽しさがイメージできない。
・降園準備	・コップ置き場 おたよりファイル	・準備の時にコップを先に取り残すために残ってしまう。 ファイルを忘れることもある。	・いつも同じ順でなくてもできるようになってきているものの、自分で何を入れたか確かめる気持ちになっていない。
・片付け	・園庭、部屋	・自分から片付けはじめを意識できない。 「針が○になるまでに手洗い等も終わって座る」のような指示だと動ける。	・”集まる時刻”の表示では、 <u>どれくらいの時間がかかるかわからない子もいるのか。</u>
・遊び	・テーブル等	・切ったあとのゴミが散らかる。 制作テーブルにはいつもゴミ箱を置いているが、入れない子もいる。 別の場を作った時にはもっと散らかる。	・ゴミ箱が複数ないといけない。 紙を切るときは、どの場においても小さなゴミ箱をもつていった方がよいことが習慣づいていない。
・登園時の荷物の片付け	・廊下 ・教室内の各自の荷物棚	・所持品の始末をする前に、自分の興味が向いたところに行ったり、やったりしてしまう。	・所持品を始末するというよりも、興味があることを優先させてしまう。
・遊びの片付け	・保育室 ・園庭 ・ホール	・片付けの時間と分かっているにもかかわらず片付けに気持ちが向かない。	・片付ける場所が分かっているようで分かっていない。 ・片付けをすること自体が嫌だと感じている ・物を出し過ぎていて、片付ける気にならない。
・手洗い・うがい	・保育室 ・手洗い場	・水を出し過ぎてしまい、床を汚したり、服を濡らしてしまう。	・一気に蛇口を開いて（あけて）しまう。 <u>調整できていない。</u> ・ふざけてやっているところもある。

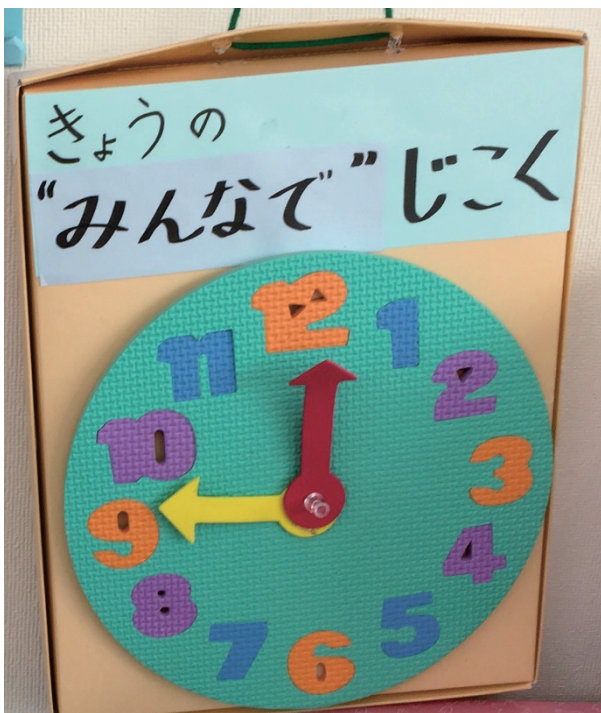
3. 取組

アンケート結果に基づいて、見通しをもって活動できるための工夫や、活動の内容がよりわかりやすくなるための工夫など様々な取組を行った。ここでは、その中のいくつかの取組について述べる。

(1) 見通しをもって活動できるための取組

① タイムタイマーの活用

従来から年長組では、時計の絵を使って活動の終了や次の活動に移る時間を示していたが、時計が読めない年少組の園児たちが、視覚的に見てわかるようにタイムタイマーを活用した。



年長組で使用している時計の表示



年少組で使用したタイムタイマー

タイムタイマーは、残り時間を示す赤い円盤が少しずつ減っていき、0の位置になるとタイマーが鳴るもので、時計が読めない年少組の園児にとって視覚的に「あとどれくらい」がわかるものである。タイムタイマーを部屋の中の見やすい場所に掲示することで、あとどれくらいを意識するようになったり、遊びから片付けへの移行がスムーズになったりするなどの効果があった。

② 掲示物の整理

部屋の壁面には、園児たちの作品や一日の予定など様々な掲示物がある。掲示物の内容によって掲示位置を整理し、また一日の予定など強調したいものをより目立たせる工夫をした。



整理前の壁面



整理後の壁面

整理前の壁面では、様々な掲示物が区別なく掲示されていたが、掲示物のスペースを分け、一日の予定は枠で囲んで強調している。それまで一日の見通しをもちにくかった園児が、予定の掲示スペースがはっきりして見やすくなったことで意識化ができ、自分で確認しながら行動するようにな

るなどの効果があった。

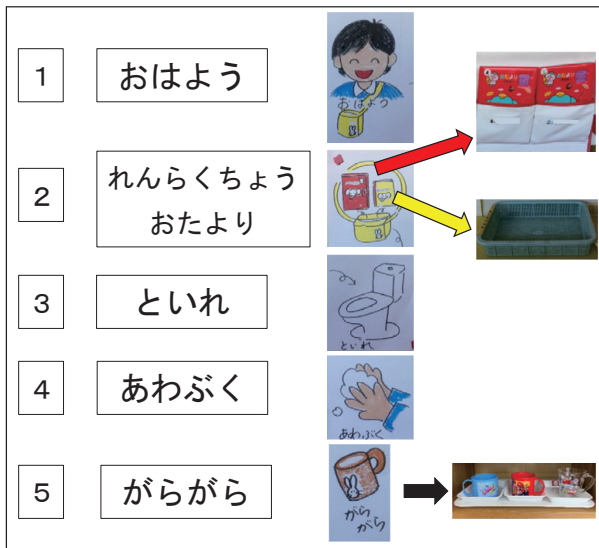
(2) やることがわかるための取組

①活動の手順の示し方の工夫

登園後の荷物の片付けの際に、何をどうすればよいのかをわかりやすくするための取組は先に述べたとおりである。しかし、やる内容がわかっても、どういう順番でやればよいのかがわからないために活動が止まってしまう園児もいる。そのような園児には、内容だけでなくやる順番もわかるようにした。



やる内容がまとめて示された掲示



やる内容と順番が示された掲示

どのような順番でどのようにやれば早く片付けが終わり、自分がやりたい遊びにかかれるかは、園児一人一人が考え、自分なりのやり方を工夫し

ていくことが、主体性を育てようとする幼稚園教育の本来の目的である。しかし、上の写真のような掲示だけではわかりにくい園児がおり、そのような園児には下の写真のような掲示を行うことも有効である。

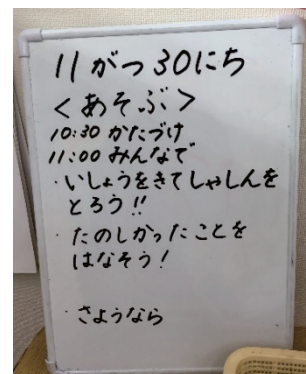
②個人の持ち物の整理

個人で使用するハサミや筆記具などは個人用の棚のカゴに入れて保管しているが、その整理がなかなかうまくいかない園児がいる。そのような園児には、下のような写真を用意し、このようにカゴに入れればうまく整理することができるという見本を示すことも効果があった。

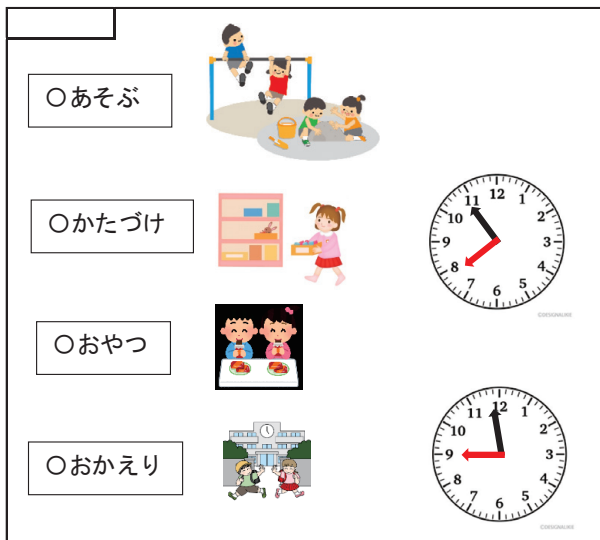


③活動の提示

一日の見通しをもつこととも関連するが、それぞれの活動の中で何をやるのかが合わせてわかるための工夫も必要である。



年長組の提示



年中・年少組での提示

年長組では、小学校への移行を想定して文字による提示も必要であるが、年中・年少組ではイラストとの組み合わせなど発達段階に応じた提示の工夫を行うことが効果的であった。

4. 考察

本園では、最初に述べたように、園児が自分でわかって活動できるようにするための様々な工夫が行われている。しかし、そのような工夫だけではスムーズに活動できずに困っている園児がいる。そのような園児に対しては、個々のニーズに合わせた支援や工夫が必要である。本研究では、これまでから行っている工夫を基盤に、個々のニーズに合わせた支援や工夫を行うことが有効であることや、他の幼児にとってもわかりやすい環境づくりにつながることを確認できた。

5. まとめ

幼稚園教育の基本はあくまでも園児一人一人の個性を尊重し、主体性を育てることにある。過度な支援や配慮は、園児の個性や主体性を損なうことにつながる虞がある。幼稚園教育の基本と必要な支援の両面から適切なユニバーサルデザイン化について検討することが求められる。

本研究では、あくまで生活場面に限定して取組や検討を行い、幼稚園生活の中で最も重要な遊び

の場面でのユニバーサルデザイン化については対象としていない。本研究の成果も踏まえて、遊びの場面におけるユニバーサルデザイン化について研究を進めることが次の課題である。

引用文献

文部科学省 (2017) 幼稚園教育要領<平成 29 年告示>。フレーベル館。

- i ベネッセ教育総合研究所が、2018 年 11 月から 12 月にかけて、全国の 16,037 の園児数 30 人以上の公立・私立幼稚園、公営・私営認可保育所、公営・私営幼保連携型認定こども園の園長・所長・施設長、副園長（教頭）・副所長・副施設長、主任等を対象に郵送で実施した調査。調査項目は、環境や設備、保育者の状況、教育・保育目標、要領・指針への対応、教育・保育活動、保幼小接続、園の運営上の課題、保護者とのコミュニケーションなどである。有効回答数は 4,565 園（有効回答率 28.5%）である。結果について現在速報版がウェブ上で公開されている。

<https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=5444> (2020. 11. 20 閲覧)

- ii ここでいうユニバーサルデザインとは、2012 年に中教審の特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」に示された以下の定義に従う。

バリアフリーは、障害によりもたらされるバリア（障壁）に対処するとの考え方であるのに対し、ユニバーサルデザインはあらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1325887.htm (2020. 12. 26 閲覧)

- iii 岩手大学教育学部特別支援教育科の鈴木恵太准教授作成の「ユニバーサルデザインに基づいた保育環境づくりチェックリスト（案）」の中の項目の一つである「落ちて遊んだり活動に取り組める環境を整える」という視点から、園児たちが生活の中でスムーズに活動できていない場面（困っている場面）とその原因として考えられることを回答するもの。